



Survivorship
National Cancer Center
Cancer Support Center

ご当地カフェ in 沖縄

～がんになったあとの暮らしを学ぶ・語るイベント～

開催報告書

平成24年1月19日(日)開催

主催：沖縄県地域統括相談支援センター

国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部

後援：琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

名 称 : 「ご当地カフェ in 沖縄 ～がんになったあとの暮らしを学ぶ・語るイベント～」

日 時 : 平成26年1月19日(日)13:00～16:00(12時会場)

場 所 : 浦添市てだこホール 市民交流室

参加費: 無料

対 象 : 一般県民(がん患者、がん患者のご家族、その他関心のある方)

定 員 : 50名(事前申込なし)

主 催 : 沖縄県地域統括相談支援センター

国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部

後 援 : 琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

■チラシ(A4片面フルカラー) ※県内医療機関・雇用支援機関・患者会等270箇所へ配布




ご当地カフェ in 沖縄

～がんになったあとの暮らしを学ぶ・語るイベント～

<ご当地カフェ>とは、がんになったあとの暮らしについて学び、語り合う学習イベントです。
このたびは沖縄県地域統括総合支援センターと国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部の共催で、
がん治療と仕事の両立を考えるカフェを開くことになりました。
お茶を飲みながら講演を聞き、両立の課題をみんなでざっくばらんに話し合いませんか？

日時：2014年**1月19**日(日) 13:00～16:00(12:00開場)

場所：浦添市てだこホール 市民交流室

主催：沖縄県地域統括相談支援センター
国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部

後援：琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

定員：50名(事前申し込み不要、当日直接会場においでください)

対象：一般県民(特にがん体験者やご家族、医療者や職場の方、その他関心のある方ならどなたでも。
病気の有無は問いません。)

参加費：無料(会場にお茶とお菓子あり)

プログラム：

[13:00] 開会あいさつ：増田 昌人(沖縄県地域統括相談支援センター センター長)

[13:05～14:00]
講演：高橋 都(国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部長)
「がんになっても働きたい！ ～両立のために自分・職場・医療者ができること」

[14:00～14:10] 休憩

[14:10～14:30] 沖縄県における働くがん患者の現状(県内関係者3名)

[14:40～15:30] カフェタイム：お茶をしながら、仕事や日常生活のことをみんなで話そう

[15:30～16:00] 全体発表

[16:00] 閉会あいさつ：樋口 美智子(沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 部会長)

「ご当地カフェ in 沖縄」のお問い合わせ先
沖縄県地域統括相談支援センター 担当：島袋(琉球大学医学部附属病院がんセンター内) tel:098-942-3407 / fax:098-942-3408

■新聞広告(有料)

沖縄タイムス おれんじ村 <1月9日(木)掲載>

イベント開催



ご当地カフェ in 沖縄

～がんになったあとの暮らしを学ぶ・語るイベント～

ご当地カフェとは がんになったあとの暮らしについて学び、語り合う学習イベントです。お茶を飲みながら講演を聞き、抱えている問題をみんなでざっくばらんに話し合いませんか？

講演 「がんになっても働きたい！
～両立のために自分・職場・医療者ができること～」
講師：高橋 都
(国立がん研究センターがん対策情報支援センター がんサバイバーシップ支援研究部長)

日時 2014年 1月19日(日) 13:00～16:00 (12:00開場)


場所 浦添市てだこホール 市民交流室 **定員50名**

対象 一般県民(特にがん体験者やご家族、医療者や職場の方、その他関心のある方などなたでも)
※参加費無料(会場にお茶とお菓子をご用意しています)

主催：沖縄県地域統括相談支援センター
国立がん研究センターがん対策情報支援センターがんサバイバーシップ支援研究部
後援：琉球大学医学部附属病院がんセンター、沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会

お問い合わせ 【沖縄県地域統括相談支援センター】担当：鳥袋 冨098-942-3407(直通)
または098-895-1368 / fax:098-942-3408

琉球新報 ちよbit <1月16日(木)掲載>



講座・勉強会

講演会

～がんになったあとの暮らしを学ぶ・語る～

ご当地カフェ in 沖縄開催のご案内

ご当地カフェとは、がんになったあとの暮らしについて学び、語り合う学習イベントです。がん患者の抱える悩みは多岐に渡り、特に経済的問題は治療に影響することもあり、働く世代のがん対策の充実が叫ばれています。ぜひこの機会にお茶を飲みながら講演を聞き、治療と仕事の両立について、またがんになった後の日常生活について話し合いませんか？

講師：高橋都先生(国立がん研究センターがん対策情報支援センターがんサバイバーシップ支援研究部長)「がんになっても働きたい！～両立のために自分・職場・医療者ができること」

日時：2014年1月19日(日) 13:00～16:00(12:00開場)

場所：浦添市てだこホール市民交流室
定員：50名(参加申込不要)

対象：一般県民(特にがん体験者やご家族、医療者や職場の方、その他関心のある方などなたでも)

参加費：無料(お茶・お菓子含)

お問い合わせは
沖縄県地域統括相談支援センター
担当：鳥袋 冨098-942-3407(直通)
又は098-895-1368 FAX:098-942-3408

■新聞記事(無料)

沖縄タイムス <1月16日(木)掲載>

がん患者の就労考える 19日 浦添てだこホール

がん患者の就労について現状や課題を学ぶ「ご当地カフェ in 沖縄」(主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがん対策情報支援センターがんサバイバーシップ支援研究部)が19日午後1時、浦添市てだこホール市民交流室である。

国立がん研究センターの高橋都さんが「がんになっても働きたい!」をテーマに講演。参加者が、お茶を飲みながら仕事や日常生活の問題を話し合うカフェタイムもある。県内での開催は初めて。

15日、沖縄タイムス社を訪れた県地域統括相談支援センターの上原弘美さん=写真右=は「治療にお金がかかるがん患者



にとつて、就労は重要な問題。患者会の枠を超えて当事者同士が語り合う機会が少なかったので、患者や家族だけでなく関心のある多くの人に参加してほしい」と呼び掛けた。

参加無料。問い合わせは県地域統括相談支援センター、電話098(942)3407。

琉球新報 <1月19日(日)掲載>

がん体験者や家族ら 語り合うカフェ開催 きょう、てだこホール

がんになったあとの暮らしを学び、語り合う「ご当地カフェ in 沖縄」(主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部)が19日、浦添市てだこホール市民交流室で開かれる。入場無料。がん体験者や家族、医療者らが集まり、お茶を飲みながら互いの悩みや意見を交わし、新たな支援の方法を考える。

第1部では国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部の高橋都部長が、がん患者と就労をテーマに講演する。第2部では「沖縄における働くがん患者の現状」と題し、行政

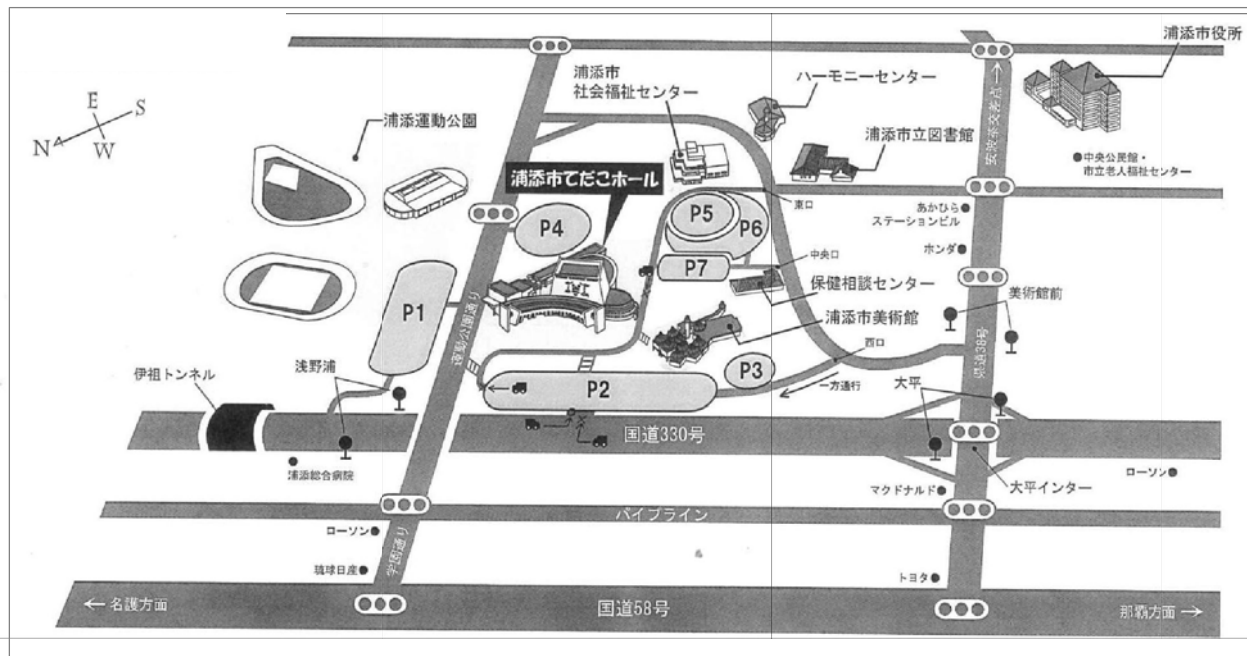


「ご当地カフェ in 沖縄」をPRする県地域統括相談支援センターの上原弘美さん(左)と鳥袋音繼さん=15日、那覇市天久の琉球新報社

・医療関係者が報告する。参加者が小グループに分かれて意見交換するカフェタイムを設ける。

県地域統括相談支援センターの上原弘美さんは「多くの方が意見を交わすことが新たな支援につながる」と参加を呼び掛けた。問い合わせは同センター 冨098(942)3407。

■周辺マップ



<施設全景>



<市民交流室 入口>



浦添市てだこホール

市民交流室

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1-9-3

TEL 098-942-4360

FAX 098-942-4338

アクセス(車をご利用の場合)

空港から国道330号線(バイパス)北へ12km、
約30分

氏名	ふりがな	所属・役職	備考
高橋 都	たかはし みやこ	国立がん研究センターがん対策情報支援センター がんサバイバーシップ支援研究部長	演者
安里 香代子	あさと かよこ	沖縄県がん患者会連合会 事務局長	登壇者
阿部 義則	あべ よしのり	沖縄県福祉保健部医務課 課長	登壇者
狩野 誠	かの まこと	沖縄県商工労働部雇用政策課雇用企画班 班長	登壇者
國代 尚章	くにしろ なおあき	沖縄労働局職業安定部 部長	登壇者
仲田 秀光	なかだ ひでみつ	那覇商工会議所 専務理事	登壇者
川満 光行	かわみつ みつゆき	沖縄県商工会連合会 専務理事	登壇者
宮里 泰邦	みやざと やすくに	日本労働組合総連合会沖縄県連合会(連合沖縄) 副事務局長	登壇者
石郷岡 美穂	いしごうおか みほ	医療ソーシャルワーカー・琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センター・シエント	登壇者
青木 一雄	あおき かずお	産業医・琉球大学大学院医学研究科 衛生学公衆衛生学講座 教授	登壇者
樋口 美智子	ひぐち みちこ	沖縄県がん診療連携協議会 相談支援部会 部会長	閉会あいさつ
栗山 登至	くりやま とし	琉球大学医学部附属病院がんセンター 医師	ファシリテーター
高江洲 アヤ子	たかえす あやこ	地方独立行政法人那覇市立病院 医療ソーシャルワーカー	ファシリテーター
吉本 多佳子	よしもと たかこ	沖縄県立中部病院 看護師	ファシリテーター
山本 紗織	やまもと さおり	社会医療法人敬愛会中頭病院 薬剤師	ファシリテーター
砂川 克子	すながわ かつこ	宮良クリニック 看護師	ファシリテーター
濱田 香純	はまだ かすみ	アドベンチストメディカルセンター 看護師	ファシリテーター
川満 久美子	かわみつ くみこ	介護老人保健施設池田苑 看護師	ファシリテーター
呉屋 清美	ごや きよみ	看護師	ファシリテーター
大久保 礼子	おおくぼ れいこ	琉球大学医学部附属病院がんセンター 医療ソーシャルワーカー	事務スタッフ
伊佐 順子	いさ じゅんこ	琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務員	事務スタッフ
福地 美里	ふくち みさと	琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務員	事務スタッフ
天野 明日香	あまの あすか	琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務員	事務スタッフ
仲本 奈々	なかもと なな	琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務員	司会進行
増田 昌人	ますだ まさと	沖縄県地域統括相談支援センター センター長	主催責任者 開会あいさつ
上原 弘美	うえはら ひろみ	沖縄県地域統括相談支援センター 相談員	進行管理
島袋 香織	しまぶくろ かおり	沖縄県地域統括相談支援センター 事務員	進行管理

■日 時:平成26年1月19日(日)
 ■会 場:浦添市てだこホール 市民交流室
 ■時 間:12:00-16:00(13:00開演)

司会進行:仲本奈々(琉球大学医学部附属病院 がんセンター)

開始時間	終了時間	所要時間(分)	内容	担当
12:00	13:00	60	受 付	
13:00	13:05	5	主催者あいさつ	増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター センター長)
13:05	14:00	55	講演: 「がんになっても働きたい! ~両立のために自分・職場・医療者ができること~」	高橋 都先生 (国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部長)
14:00	14:10	10	休憩・配置替え	
14:10	14:40	30	沖縄県における働くがん患者の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・安里 香代子 (沖縄県がん患者会連合会 事務局長) ・阿部 義則 (沖縄県福祉保健部医務課 課長) ・狩野 誠 (沖縄県商工労働部雇用政策課雇用企画班 班長) ・國代 尚章 (沖縄労働局職業安定部 部長) ・仲田 秀光 (那覇商工会議所 専務理事) ・川満 光行 (沖縄県商工会連合会 専務理事) ・宮里 泰邦 (日本労働組合総連合会沖縄県連合会(連合沖縄) 副事務局長) ・石郷岡 美穂 (琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センター・シエント医療ソーシャルワーカー) ・青木 一雄 (琉球大学大学院医学研究科 衛生学公衆衛生学講座 教授 産業医)
14:40	15:30	50	カフェタイム: お茶をしながら、仕事や日常生活のことをみんなで話そう	※各スモールグループに進行役(医療関係者)が1名つく
15:30	16:00	30	全体発表	高橋 都先生
16:00	16:05	5	閉会あいさつ	樋口 美智子 (沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 部会長)

高橋 都 (たかはし みやこ) 先生

■経歴:

昭和59年岩手医大医学部卒業。
 その後10年間、東京慈恵会医大第一内科、立川中央病院
 内科などで内科臨床に従事。
 平成6-10年東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻、
 博士(保健学)
 平成11年 東京大学大学院医学系研究科助手
 (平成13-14年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校公衆
 衛生大学院客員研究員)
 平成19年 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学
 専攻 老年社会科学分野講師
 平成21年獨協医科大学公衆衛生学准教授
 平成25年4月より国立がん研究センターがん対策情報セ
 ンター がんサバイバーシップ支援研究部長

■学会活動

日本サイコオンコロジー学会理事
 日本医学教育学会編集委員
 日本がんと性研究会実行委員

■研究分野:

がん患者および家族のサバイバーシップ
 医療現場の多職種連携(チーム医療)
 質的研究手法 など

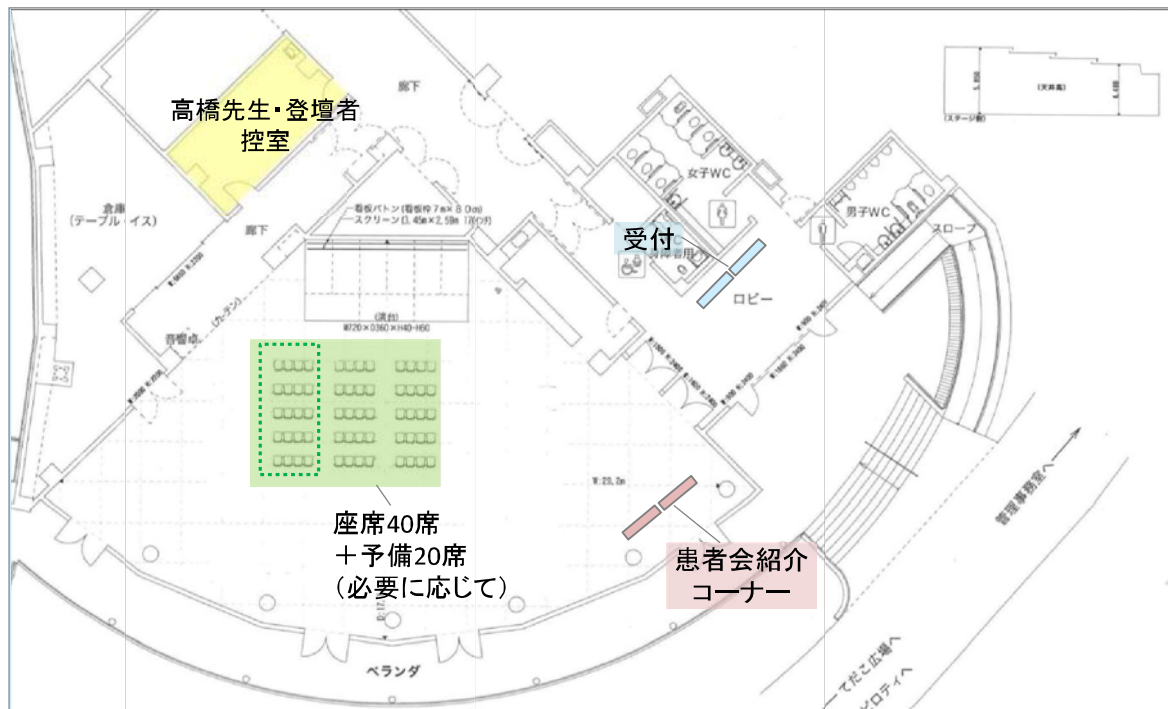
■著作:

「シリーズ生命倫理学第4巻 終末期医療」(共編著, 丸善出版, 2012)
 「Asian Perspectives and Evidence on Health Promotion and Education」
 (共著, 2011)
 「ケア従事者のための死生学」(共著:ニューヴェルヒロカワ, 2010)
 「新臨床腫瘍学第2版」(共著:南江堂, 2009)
 「死生学シリーズ5 医と法をめぐる生死の境界」(共編著:東京大学
 出版会, 2008)
 「はじめての質的研究法:医療・看護編」(共編著:東京図書, 2007)
 「がん患者の<幸せな性>新装版」(共訳書:春秋社, 2007) など多数。

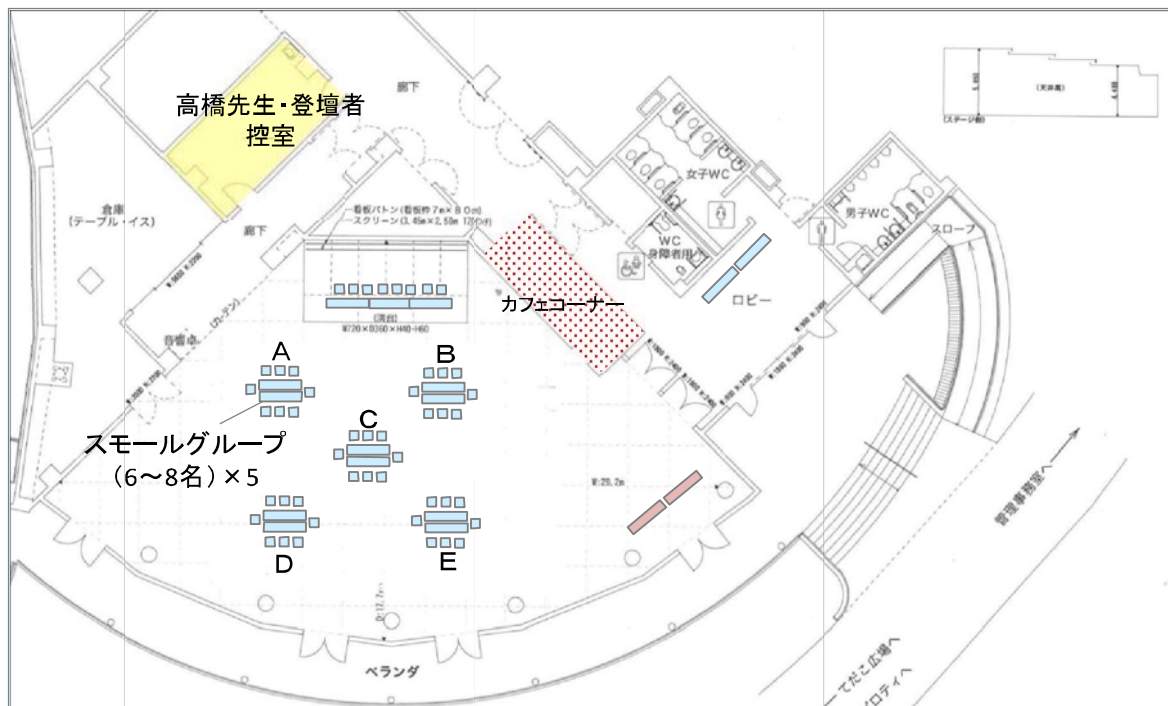
■趣味: 水遊び(シーカヤック、シュノーケリング)



■開会あいさつ～講演（13:00～14:00）



■ 沖縄県における働くがん患者の現状カフェタイム～全体発表～閉会あいさつ（14:00～16:05）



1. ご当地カフェチラシ
2. 第5回Ti-daわらばーむチラシ
3. 琉大ゆんたく会チラシ(11回)
4. 琉大ゆんたく会チラシ(年間)
5. 県立中部病院ゆんたく会チラシ
6. 那覇市立病院患者サロンチラシ
7. 沖縄県がん診療連携協議会チラシ
8. がんサポートハンドブックチラシ
9. がんと就労 各種支援ツール
10. 沖縄県地域統括相談支援センターチラシ
11. がん相談支援センターチラシ



▼受付風景



▼患者サロン・患者会紹介コーナー



▼場内風景



▼開会のあいさつ:増田センター長



▼講師:高橋都先生 (国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部長)



▼演題:がんになっても働きたい!



▼質疑応答



▼沖縄県における働くがん患者の現状



▼県内関係者9名



▼阿部 義則様
(沖縄県福祉保健部医務課 課長)



▼國代 尚章様
(沖縄労働局職業安定部 部長)



▼川満 光行様
(沖縄県商工会連合会 専務理事)



▼安里香代子様
(沖縄県がん患者会連合会 事務局長)



▼狩野 誠様
(沖縄県商工労働部雇用政策課雇用企画班 班長)



▼仲田 秀光様
(那覇商工会議所 専務理事)



▼宮里 泰邦様
(日本労働組合総連合会沖縄県連合会(連合沖縄) 副事務局長)



▼石郷岡 美穂さん
(琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センター・シエント 医療ソーシャルワーカー)



▼カフェタイムの様子



▼全体発表



▼まとめ: 高橋都先生



▼青木 一雄先生
(琉球大学大学院医学研究科 衛生学公衆衛生学講座 教授・産業医)



▼カフェタイムの様子



▼全体発表



▼閉会あいさつ: 樋口美智子
(沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 部会長)



沖縄タイムス <1月22日(水)掲載>

職場と医師 連携重要 がん患者の就労議論

がん患者の5年生存率が約6割に向上し、働く世代にとって「長く付き合う慢性病」を位置付けられる中、収入や生きがいなどを含む就労問題を幅広い立場で話し合う県内初の企画が19日、浦添市で「ご当地カフェin沖縄」を開催した。患者や家族ら約40人のほか、経営者や労働組合、行政の関係者ら9人が加わり、グループに分かれて討論。患者も職場、医療者らが連携して当事者の状況や意向に沿った就労支援の必要性を確認した。

国立がん研究センターに昨年4月発足した、がんサバイバシップ支援研究部（高橋都部長）が県地域統括相談支援センターと共催し、気軽に話せるよう「ご当地カフェ」と銘打ち、全



の第2次がん対策推進基本計画で重点課題とされ、県計画にも明記されている。県患者会連合会からは、患者らへのアンケートで、治療の経済的負担に加え、30〜50代の3分の1が職に就けず精神的にも苦しいと答えた結果が紹介された。県商工会連合会からは、中小企業が99.7%を占める県内で、就労に関する相談を受ける専門家を派遣する制度を活用し、小規模事業所を支援したい、という意見もあった。

国に先駆けて開いた。がん患者の就労問題は国

琉球新報 <1月28日(火)掲載>

◆ご当地カフェ がんと付き合い方

がんになった後の暮らしを学ぶ・語るイベント「ご当地カフェin沖縄」（主催・県地域統括相談支援センター、国立がん研究センターがんサバイバシップ支援研究部）が19日、浦添市の「ご当地カフェin沖縄」市民交流室で開かれた。がん体験者をはじめ、医療関係者や会社員、経営者など関心のある人たち約70人が参加した。

日本人の2人に1人は、がんの診断を受けると言われ、5年生存率は約6割に上るといふ。「がんになっても働きたい！」をテーマに講演した、国立がん研究センターのがんサバイバシップ支援研究部長の高橋都さんは「死に直結する病気ではなく、長く付き合う慢性病として、がんを捉える必要がある」と語った。

参加者は六つのグループに分かれ、①働く時に困ったこと②どのようなことを知りたいか③周りの人に何を知ってもらいたい

ご当地カフェin沖縄 浦添市市民交流室

患者や医療・企業関係者が参加し、がん患者の暮らしについて意見を深めた「ご当地カフェin沖縄」=19日、浦添市で「ご当地カフェin沖縄」市民交流室

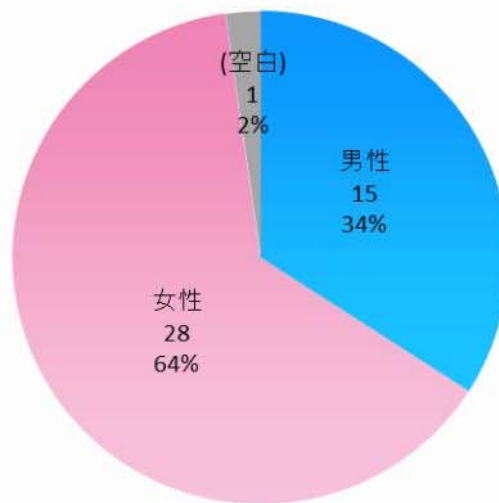
いかーについて話し合った。

がん体験者からは「治療のため、仕事を休まざるを得ず、医療費、生活費をどこから捻出するかが大変」「自営業で、従業員が自分を含め2人だけだったので迷惑を掛けてしまった」「傷病手当の申請など、どんな制度がありどこに相談すればいいのか分からず困った」などの声寄せられた。

企業の立場からは「いつからいつまで休むのか、治療期間を知りたい」「休業中の雇用について、育児休業のような法的な支援がないと中小企業は厳しい」という意見が上がった。

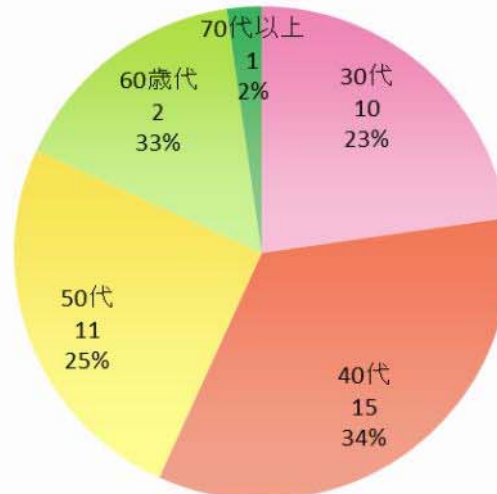
「ご当地カフェ」は、沖縄を皮切りに、今後全国各地で開催する予定という。

1. 性別



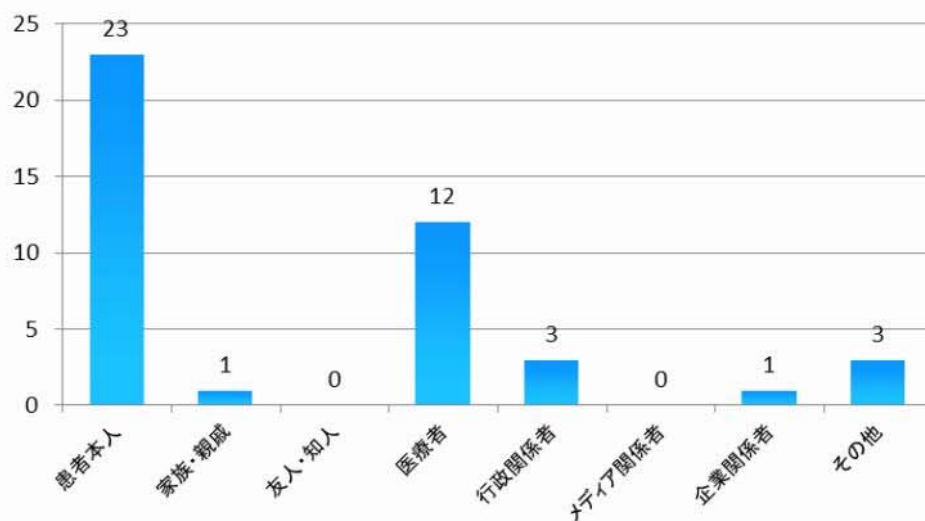
N=44

2. 年代

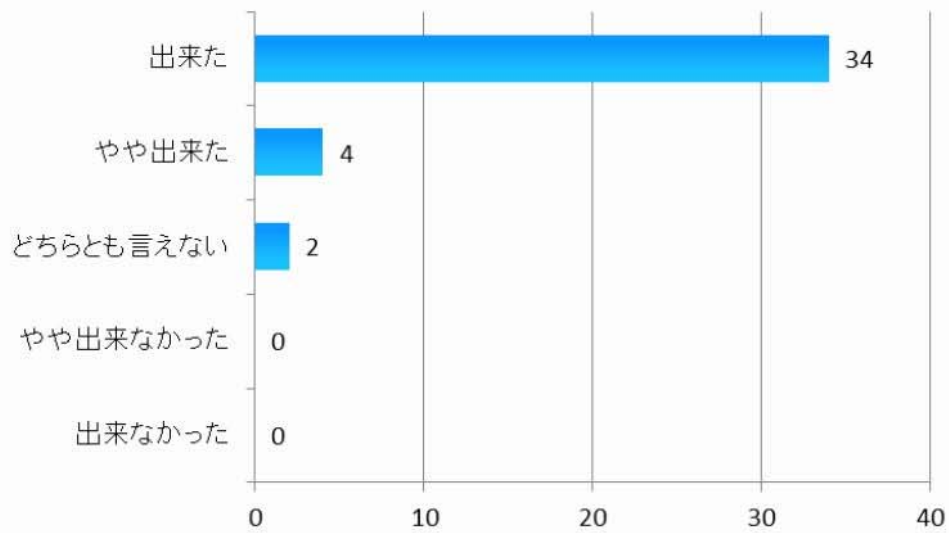


N=44

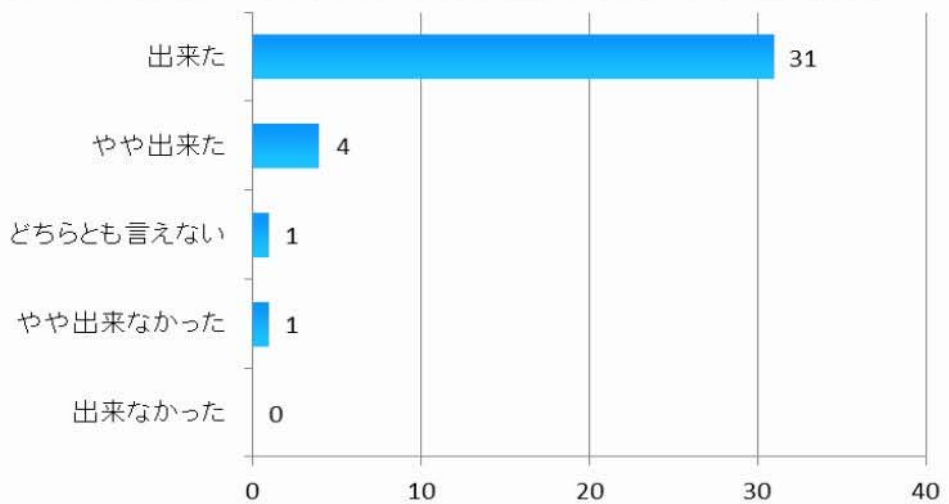
3. 立場



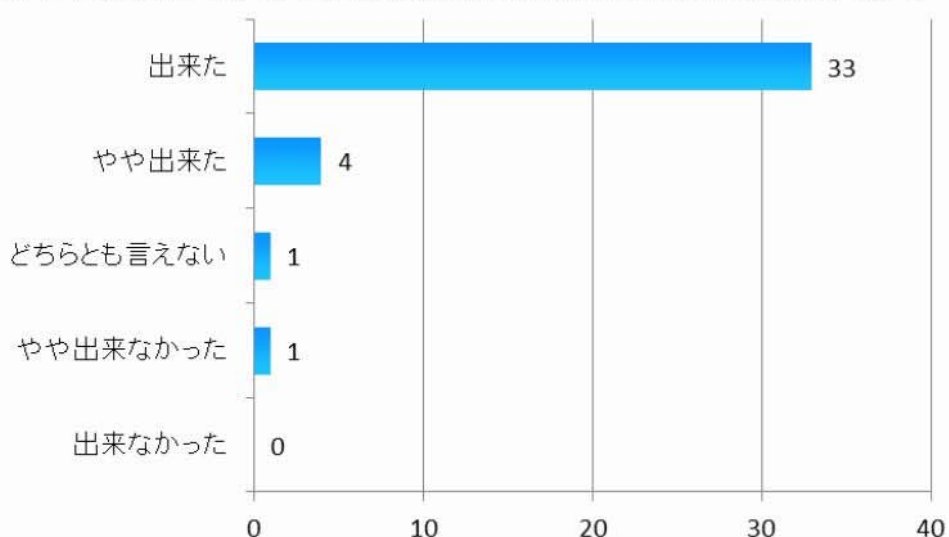
4. ご当地カフェで新たな情報を得ることは出来ましたか？



5. ご当地カフェで色々な立場の方と交流が出来ましたか？



6. ご当地カフェは「がんと暮らし」を考えるきっかけになりましたか？



7. ご意見・ご感想

患者本人
本日はありがとうございます。これからもいろいろな話し合い、支援があることで心の支えになるので助かります。これからも宜しくお願いします。
私は乳癌治療中（専業主婦）ですが特に隠してはいません。でも、就職で健康の項目に「良好」って書くかも。。と書いていたのですが、今回いろいろなお話を聞いて勇気ももらいました。
就活の際には「乳癌」を伝える→出来ること、配慮が必要なところを伝える→何かあった時には会社の制度があることを伝える。
ただでさえ難しい就職に立ち向かうには、現状を伝え「やる気」をアピールするのがいいのかなと思いました。それでも雇ってくれる会社ならさらに頑張れると思う。
これから仕事をしたいと考えていたのでいろいろと参考になりました。
今回、高橋先生や労働局、商工会の皆さんも来て、雇用保険など職務に出るときに相談ができたことを期待したいと思います。
これから再就職しようと思っていたところだったのでいろいろな情報が得られてよかったです。世の中いろんな意味で動き出しているんだなと思いました。ありがとうございます。参加して良かったです。
参加して良かったです。いろんな立場の方々と交流できたことで、やはり悩みや幸せはみんなで共有していくことはとても大切です、今日は誠にありがとうございました。
やっぱり患者はみんなの情報が一番必要。このようなカフェで話し合いを月2ぐらいで開催してほしい。
ありがとうございます。また機会があれば参加します。
個人個人の収入別に話をするとまた違うことが出来ると思う。
「がん患者就労支援の登壇者たち」の中で「職場」の人達にがんについて理解してもらうことがとても大事だと感じた。今日のように患者・医療者・職場（事業主・企業）の三者が交流を持つという場ははじめてだったがとても素晴らしい。
計測することについては大変でしょうが頑張ってください
本日はありがとうございます。これからもこういうような話し合い、支援があることで心の支えになるので助かります。これからも宜しくお願いします。
私は乳癌治療中（専業主婦）ですが特に隠してはいません。でも、就職で健康の項目に「良好」って書くかも。。と書いていたのですが、今回いろいろなお話を聞いて勇気ももらいました。
就活の際には「乳癌」を伝える→出来ること、配慮が必要なおところを伝える→何かあった時には会社の制度があることを伝える。
ただでさえ難しい就職に立ち向かうには、現状を伝え「やる気」をアピールするのがいいのかなと思いました。それでも雇ってくれる会社ならさらに頑張れると思う。

医療者
参加できてとても良かったと思います。多職種と、また、患者と関わることでいろいろと情報を得ることが出来ました
沖縄県の良さ”みんなで連携”頑張りましょう
いろいろな立場からのお話を聞くことで、それぞれの思いや提案を聞くことが出来大変勉強になった。
今回のように県、行政の参加が望ましい
参加できてとても良かったと思います。多職種と、また、患者と関わることでいろいろと情報を得ることが出来ました

7. ご意見・ご感想(つづき)

企業関係者

がん治療においては通院治療への企業や職場の人の理解が必要だと思いました。現実では、まだ病気を他の人が理解していないことが多く、この様な不安を解消するための方法は各企業や病院でのアドバイスはどうなっているのか知りたいです。

啓発・普及の必要性を感じた。今後も継続して実施していただきたい

その他

様々な方が参加していたのでいろいろなお話しが聞けてよかった。今後も継続していくべきだと思います。